

～核兵器のない世界めざして～

平和行進で小泉勇先生が激励あいさつ



「核兵器のない世界を」。人類共通のこの願いを実現するために広島で開催される「2012 原水爆禁止世界大会」を目指して今年も平和行進が行われた。毎年核兵器廃絶を訴えて日本全国の市町村を結んで歩き続ける「国民平和行進」は、1958年にはじまり、今年で54年目を迎える。

7月8日に伊丹市役所前に到着した一行は伊丹原水協の出迎えを受け、同会理事長の小泉勇先生(支部幹事/伊丹市)が激励のあいさつに立った。小泉先生は「私たちは唯一の被爆国の責務として、悲惨で非人間的な核兵器の存在を絶対に許してはならない。67年前の広島・長崎の惨禍を決して忘れず、核兵器のない平和で公正な世界をつくるため、日本は世界にさきがける使命をもつ」と訴えた。



「核廃絶は人類の願い」と小泉先生



第300回幹事会だより

7月5日(木) 於・いたみ市立商工プラザ 参加: 4人

◆北阪神支部の会員数と組織率

7/4現在 医科322人(72%)、歯科161人(51.6%)

◆医療をめぐる情勢と運動対策

消費税増税法案、生活保護の問題、大阪維新の会の政策などについて議論しました。

◆当面の支部活動

9月8日(土)17時～伊丹シティホテルで「在宅医療研究会」を予定。

◆次回の幹事会

8月2日(木)14時30分～伊丹市立商工プラザ4F研修室B
会員の先生方はどなたでもご参加いただけます。

お問い合わせはTEL 078-393-1805 駒ヶ嶺・小川まで

支部ニュースへの投稿を募集しています!

日常の診療にかかわることや主張、書籍の紹介、俳句や川柳などテーマや形式は問いません。地域色豊かな話題を北阪神支部の会員の先生方で交流したいと思います。



【FAX】078-393-1802 【E-mail】koma@doc-net.or.jp 北阪神支部担当・駒ヶ嶺まで

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2012年7月25日号 No.222

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

県立こども病院のポーアイ移転計画の中止を求める請願

宝塚市会が「趣旨採択」

北阪神支部が伊丹市、宝塚市、川西市の6月市議会に提出した「県立こども病院のポートアイランド移転計画の中止」を求める意見書を県に提出するよう求める請願が、宝塚市議会で全会一致で趣旨採択された。県への意見書の提出はしな

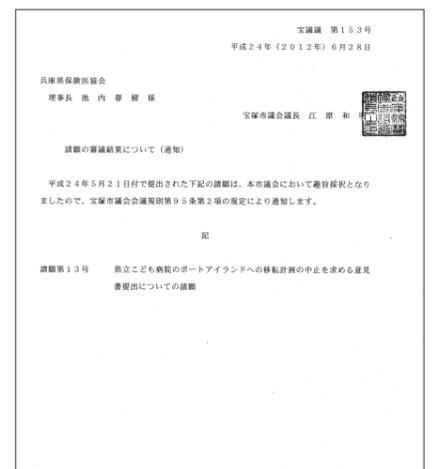
いが、請願の趣旨には賛成するとのいうもの。
伊丹市議会は委員会で採択されたものの、本会議で自民、公明各会派などの反対多数(賛成12、反対14)で否決。川西市議会では共産党以外の反対多数により否決された。反対の理由は「県の資料では安全だと言っている」「これからポーアイの防災対策をすれば大丈夫」「アクセスがよくなる」など県の説明を鵜呑みにした内容。

請願の紹介議員となったのは宝塚が草野義雄、伊丹が上原ひでき、川西が北野のり子、住田由之輔各議員。いずれも日本共産党。

県立こども病院は築40年となり建替えが課題になっているが、兵庫県はポートアイランド2期地への移転計画を決定。しかし、県が発表した津波シミュレーションでもポートアイランドは孤立する可能性があるとしてされている。

請願は、東日本大震災、阪神・淡路大震災の経験からも、沿岸地に災害拠点病院を集中させることは避けるべきと指摘。県医師会をはじめとした医療団体の意見を全く聴かないままの計画策定で、医療関係者が反対の意志を表明しているなか、移転を推進することは許されないとして、計画の撤回を求めている。

その他6月議会に請願を提出した三田市は継続審議、兵庫県、神戸市は不採択、尼崎市は審議未了となった。協会は6月27日に県病院局へあらためて移転計画の撤回を要請。今後も移転撤回を求めねばり強く運動を続けていく。



宝塚市議会「趣旨採択」の通知

第5回医療安全管理対策研修会に101人が参加

「実践で役立つ」と好評

北阪神支部は6月16日、第5回医療安全管理対策研修会を伊丹市立商工プラザで開催し、医師・歯科医師・コメディカルら101人が参加した。講師は市立伊丹病院感染対策室主任・感染管理認定看護師の岸美紀子氏、同病院薬剤部・医療メディエーターの中村隆氏がつとめた。

「外来で必要な感染対策」と題して岸氏は、外来での感染経路や感染の種類について説明したうえで、防止対策について具体的に紹介。手洗い・手指衛生の重要性と方法、咳エチケット、針刺し事故への対応など、院内の掲示やマニュアルも紹介しながらわかりやすく解説した。

中村氏は、「医療事故・医療トラブル対応から学ぶ、外来での患者対応のイロハ〜なぜ、患者や家族はクレイマーやモンスターに変身するのか」と題して、クレーム発生のメカニズム、クレーム対応時の姿勢、クレイマー

の種類、院内での対策について、市立伊丹病院での事例を交えて具体的に解説。「問題解決には問題(事故)を正しく分析し、患者・家族に誠意ある姿勢を示すことが大事」と訴えた。

また中村氏はクレームによって医療従事者の精神的負担が問題になっているとし、院内のマニュアルづくりや、医療メディエーターの活用など紹介した。



参加者からは実際のクレームをもとに質問が多く出された



講師の岸氏(上)、中村氏(下)

参加者の感想

<感染対策について>

- ・他院での感染対策を聞く機会がほとんどないので参考になった。当院でも取り入れたい対策がいくつかあったのでスタッフと検討したいと思う。
- ・わかりやすい説明で理解しやすかった。咳エチケット、手指衛生の5つの瞬間など、ポスターを作ったり、しっかり行っていきたいと思った。
- ・たくさんの患者が来院すると感染率がUPするのが実感できた。今後自分が感染源にならないよう、手指消毒、感染予防を心がけたいと思う。
- ・院内感染についてどういった経路で感染するのか対策など勉強できてよかった。
- ・感染は予防が最も重要とはいえ、暴露後の対応・評価について詳細に講演いただき、当院のマニュアルの見直しを検討する必要性を感じた。
- ・アルコール消毒は患者さんにお使いいただくようにしているが、医療従事者が毎回使うことはしていなかった。流水、石鹸で手洗いすると共に、アルコール製剤を使用するようにしたい。

- ・採血が多いので、針刺し事故は予防していても絶対に起こらないとは限らない。万一の時のため勉強になった。
- ・マニュアル作りに参考となるホームページの紹介もしてもらい大変助かった。

<クレーム対策について>

- ・当院でもクレーム対応で実際に悩まされることがあり、今回の研修は助かった。メディエーターについても大変興味が出てきた。
- ・いろんなエピソードを混ぜての説明でとてもわかりやすかったが、もう少し、小さな医院の例を出してほしいかった。
- ・クレイマーへの対応のお話だったが、ただそれだけではなく、普通に来院される患者さんに対してもいっつも誠実に対応していかなければ・・・と考えさせられた。
- ・苦情、クレームに対しICの必要性を再認識した。原因に対する調査、誠意ある対応、姿勢をみせることが大切だと痛感した。
- ・少しでも冷静に対応し、上司への報告を心がけ、クレームが悪化しないように誠意を示したいと思った。
- ・クレイマーの本質を見極める方法や対応を知ることができ大変役に立った。熱い講演をありがとうございました。
- ・当院はマニュアル作成をしておらずその場その場での対応をしていたので、その必要性を痛感した。
- ・自分が患者の家族として経験した医療者に対する不信感や不満を、患者さんの周囲の方には与えないように意識して接している。クレームの多くは医療側の対応ひとつで防げている事実があると感じている。様々な事例を今後も発表していただければ参考になる。

宝塚社保協が街頭宣伝

後期高齢者医療制度を即時廃止せよ 怒りの声「民主党はウソつき」

中井通治支部長、脇野耕一副支部長が副会長を務める「社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)」は6月15日、保険料の年金天引き日に合わせ、阪急逆瀬川駅前では後期高齢者医療制度の即時廃止を求める宣伝・署名行動を行った。

協会から中井支部長が参加したほか、各団体から10人が参加し、1時間で40筆の署名を集めた。

街頭宣伝に立った中井支部長は、「皆さんの大事な年金が引き下げられた一方で、後期高齢者医療制度の保険料は上がっている。これ以上国民の生活を苦しめる制度は即時廃止すべきだ」と通行人に訴えた。

署名に応じた市民からは「(後期高齢者医療制度は)廃止すると言っていたのに民主党はウソつきだ。保険料だけどんどん上がっていく」などの声が聞かれた。



ハンドマイクで署名を訴える中井支部長



足をとめて署名に応じる市民